

目次

兵庫県手延素麵協同組合 組合創立120周年 8

麵業界展望 ～この人に聞く！～ Vol.4 12
兵庫県乾麵協同組合 田麻 正直 理事長

新たな麦制度と製麵業界の対応 14
10月改定時はさらに値上げ确实

連載45 麵の原価と適正価格 長谷川 汎 20

この店この麵が食べたい 中華惣菜 吞処 上海バンド 24

※4月号表紙に「業務用小麦粉24年ぶり値下げへ」とあるのは「値上げ」の間違いです。訂正してお詫び申し上げます。

月刊麵業界購読申込書

購読料半年8,925円
(税・送料込み)

FAX.06-6881-6859

1. 期間 年 月から

2. 部数 部

御住所

御社名

御担当者名

TEL

FAX

麵業界展望

この人に聞く！

Vol. 4

兵庫県乾麵協同組合

田麿 正直 理事長



田麿 正直 理事長

― 業界の現況について。

田麿 全国的にみた場合、兵庫県は業界の中で非常に元気があり、伸び盛りであるといえる。麵の業界の歴史は古

く、伝統的な産業であるが、

現代は伝統だけでは生きていけない。

今、この業界で企業のトップとなっているのが創業者か

ら数えて3代目というところがほとんどではないか。当組合には19の組合員がいるが、そのすべてに4代目の後継者が控えている。まだまだ存続していくということ。これは全国的にみても珍しいことではないだろうか。後継者がいる、ということとは次世代のために大きな責任があるということ、これからの繁栄のために基礎が必要になってくる。それで切磋琢磨する状況がうまれている。

組合では毎年、姫路市で「播州そうめんまつり」を開

催しており、今年で8回目を迎える。そうめん流しなどのイベントを行っており、最近では姫路市の恒例行事として定着してきた。業者にまかせたのではなく、自分達の手によって手作りで運営しているが、そこで次世代が活躍してくれている。兵庫県の勢いがわかることと思う。

播州といえばやはり手延べそうめんが全国的に有名だが、機械麵を製造している業者はそれに追いつけ、追い越せという気持ちを持って臨んでいる。そのため商品の研究、開発にも非常に熱心だ。毎年生産量が減産傾向にある中、機械麵はほとんど下がっていない。一概に言えることではないが、品質の良さが認知されているのではないかと思う。

日本の食文化は洋風化が進み、多様化してきた。しかし

日本食はヘルシーであるという点からも世界的に評価されている。この辺りで日本食への原点回帰があるのではないか。実は日本人はイタリア人と並んで小麦粉製品を多く食べる民族、それは今の若い世代もそうで、やはりうどんやそばなどの麺類をよく食べている。これから麺の生産量・消費量が大きく下がることはないと思っている。

「播州」そうめん のイメージを様々な な方面からPR

「播州そうめんまつり」をはじめとする組合の活動について。

田藤 「播州そうめんまつり」では小学生など、子供たちが多数参加してくれる。未だの消費者が流しそうめんをたくさん食べてくれている。

親がその姿をみるため、即売会の売り上げが大変好調だ。

その他のイベントにも播州そうめんを持って参加している。兵庫や近畿圏だけではなく、千葉で開催される祭りや、毎年7月7日に開催される全国乾麺協同組合連合会の「乾めんデー」のイベントにも商品を提供している。スーパー店頭での試食イベントなど、依頼があればいつでも出動している。

また、姫路市にある地場産の特産加工食品などの情報を発信しているアンテナショップでも常時商品を置いている。

福祉施設に年越しそばを提供するなど、営業面だけではなく、社会貢献にも注力している。これからも「播州」そうめん」の認知度を様々な方面からアピールしていく。そしてメニュー提案などを通じて、そうめんを夏・冬をと

して食べる通年食品としていきたい。

自信を持てる商品 作りを心がけてほしい

値上げ問題など、これからの課題を。

田藤 そば・小麦粉などの原料の値上げだけでなく、副資材・物流コスト・人件費の値上げなど、業界を取り巻く環境が厳しくなっているのは周知の事実である。そんな中、メーカーの発言力が弱くなっていると感じる。流通業者に対して強く出ることが出来ない現状が確かに存在し、そこで「あきらめモード」に入ると圧迫されてしまう。値上げを考えるとときには流通業者との対話が重要だ。その対話にあたって、同じ組合員でありながらも競争相手であるという事実がある。それでも業界

全体のことを考えて、同じ方向をむいて対策を考えていくことが大切だ。

コストの削減のために従来よりも原料のランクを下げるということは避けるべきだ。消費者をだますようなことだけは絶対にしてはならない。悔しいことも多々あるかと思うが、目先ではなく3、4年先を考えたときに質を落とすようなことは出来ないはず。自信を持てる商品作りを心がけてほしい。消費者を裏切らないよう、メーカーだけでなく、流通にもその中継ぎとして役立つという認識を持ってほしい。流通、メーカーの両者とも、今必要なものは「勇氣」である。

「播州そうめんまつり」に関する問合せは兵庫県乾麺協同組合 ☎079-288-0018。

新たな麦制度と製麵業界の対応

No.4

10月改定時はさらに値上げ確実

4月から麦の政府売渡価格が「価格変動制」相場連動制に移行し、今後は最低年2回（4月、10月）、ゆくゆくは年3回（4月、8月、12月）売渡価格が変動する時代を迎えました。

4月からの小麦の政府売渡価格は主要5銘柄平均1・3%引き上げとなり、製粉各社は5月10日以降順次、小麦粉の特約店出荷価格を25kg当たり20円～90円の値上げを実施します。製麵業界にとっても、小麦粉の値上がり分をできるだけ製品価格に反映・転嫁していくことが求められています。

そして、5月以降の麵製品価格に転嫁できない場合は、非常に大変な事態を迎えることになりそうです。

今夏の相場 情報注視を

農水省総合食料局の皆川芳嗣食糧部長は先頃、専門新聞記者会で講演し、「10月改定期には、確実に売渡価格が上がる」ことを強調しました。これには2つの要因があります。

1つは、現在の小麦の国際相場、海上運賃、為替変動から見ると、10月期の売渡価格を決めるための算定期間である昨年12月～今年7月まで8か月間の政府買付価格（政府買入価格）の加重平均が、どう予想しても、昨年11月までの1年間の加重平均（今年4月からの売渡価格を決める際に算定基礎にしたもの）を「大幅に上回る」可能性が確実であるためです。

つまり国際相場が上昇し、政府の買付価格も上昇してい

るため、自動的に売渡価格も、制度の仕組み上、全銘柄で上昇せざるを得ないということなのです。

農水省のある幹部は、「10月～来年3月の売渡価格は、値幅制限が現行の±5%だったとすれば、前回5%値下がったWW（米国産ウエスタン・ホワイト小麦）を含む全銘柄が上限の5%以上に張り付くだろう」と言い切っています。

その動向を正確に掴むには、今年7月の政府買付価格情報を注視する必要があります。

値幅制限が 拡大する

2つ目の要因は、制度の仕組みに起因するものです。それが「値幅制限」。この値幅制限はもともと、過激な相場変動を少しでも緩和する装置

ない環境を作り上げている。

報告会で来賓挨拶した日本パ
ン技術研究所の新倉英隆副理事
長（オリエンタル酵母工業株式
会）は「食の安全・安心を担保
するための第三者認証は沢山あ
るが、HACCP・ISOが形・
記録をベースにするものに対し

アコム

20年産で 1万t契約栽培



大和産業㈱（金子秀次郎社
長）は15年産から「地球環境
に優しい環境保全型事業」へ
の取り組みの一環として、堆

AIB基準は5Sの積み重ねと
いう実践的な経営と現場での継
続的取り組みをベースにしたも
の。大和産業は、日本における
AIB基準導入初期から取り組
み、5年連続最高評価の実績を
積んでいる」と評価した。また、
同研究所の井上好文常務・所長

肥発行促進剤「ワーコム」を使
用して生産した「ワーコム米」
の契約栽培・販売を展開してお
り、18年産で2400tを販売、

19年産で5800t、20年産で
1万tを目標にしている。堆肥
発酵促進剤「うまみの素ワーコ
ム」は、山形県の生産者でもあ
る(㈱ワーコム農業研究所(栗田
幸太郎代表)が特許を所有する
もので、この健康な土作りによ
る農法で生産されたのが「ワー
コム米」。大和産業は15年産か
ら同研究所とタイアップし、ワ
コム米の販売を展開しており、
06年10月には資本金1000万
円で共同出資会社㈱ワールド・
ワーコム・コミュニケーション

(農学博士)は「大和産業がA
IB基準を導入した当初は1日
で200以上の改善指示を行っ
たが短期間で大半を改善され、
導入1年半となる02年度には最
高評価を受けた。以来5年連続
で最高評価を保持している。今
後とも米穀卸業界、中小企業の

を設立、ワーコム農法の普及の
ほか、食品以外への分野開拓に
取り組んでいる。

ワーコム米の契約栽培・販売
は18年産で△JA新いわて(あ
きたこまち)1300t、△J
A西和賀(岩手、あきたこまち)
600t、△JA真室川(岩手、
はえぬき・ひとめぼれ)150
t、△JA伊勢(三重、コシヒ
カリ)350tの計2400t
を販売。19年産では、JAこし
がわら(青森、つがるロマン・
まっしぐら)500t、JA岩
手ふるさと(ひとめぼれ)50
0tを加える他、既存産地でも
作付拡大を図り、計5800t
の契約生産・販売を計画してい

安全・安心対応のモデルとなっ
てほしい」とエールを贈った。
大和産業㈱の金子秀次郎社長は
「食品企業にとって安全・安心
とより良い食品をお届けするの
が使命。今回のAIB最高評価
に甘えず、10年・20年と続けて
いきたい」と決意を語った。

る。同社の川上修己常務は「今
後はワーコム農法産地を北海
道等にも広げ、20年産では1
万t、6年後には3万tの契
約栽培・販売を目指したい」
とする。販売は、愛知・静岡・
神奈川(一部)のイオン、ユ
ニグループの店舗で、店頭
小売5kg2200円、230
0円前後で販売され、「一度
購入した消費者からのリピ
ート率が非常に高い」(同社)と
好評だ。堆肥発酵促進剤「ワー
コム」は、発酵時にガスを発
生させないのが特長とされ、
ワーコム米はこの農法によっ
て3年経過した圃場のものし
か認定しない。